



Veritas System Recovery 18

ライセンスガイド(第1.5版)

本資料は、Veritas System Recovery 18 の販売と見積もりを支援することを目的とし、使用可能なライセンス、メンテナンスプログラム、オプションについて説明しています。価格およびSKU については、WEB など最新の価格表を参照してください。本資料は予告なく変更されることがあります。

目次

1. Veritas System Recovery について	3
Veritas System Recovery 18 の主な機能	3
Veritas System Recovery 18 の新機能	4
Veritas System Recovery 18 SP1の新機能	5
Veritas System Recovery 18 SP2の新機能	6
製品ファミリーの紹介	7
Server Edition, Basic Edition, Desktop Edition の機能比較	8
購入プログラム	8
2. Veritas System Recovery のライセンス	9
ライセンス数の決定方法	9
特定の用途におけるライセンスシナリオ	10
3. 資格、アップグレード、移行パス	11
アップグレード資格	11
アップグレードの仕組み	11
サポート終了情報	11
4. サポート/メンテナンスサービスの提供	12
サポート契約レベル	12
Webベースのテクニカルサポート	13
5. 評価版	13

1. Veritas System Recoveryについて

Veritas System Recovery 18 は、ダウンタイムの削減とリカバリ時間目標の確実な達成に役立つ、高速で信頼性の高いシステムリカバリを実現します。Veritas System Recovery を導入すれば、IT 管理者は特許取得済みの Restore Anywhere 技術を使用して、物理システムや仮想システムを、ベアメタル、異なるハードウェア、遠隔地、仮想環境に高速でリストアできます。

Veritas System Recovery は、ユーザーの生産性に影響を与えることなく、システム全体（オペレーティングシステム、アプリケーション、システム設定、構成、ファイルを含む）のリカバリポイントをキャプチャします。このリカバリポイントは、直接接続型ストレージ（SAS、SATA、USB-HDD、RDX）、ネットワークストレージ（NAS、SAN デバイス）など、主要なディスクストレージデバイスに手軽に保存できます。システムに障害が発生した場合、時間と手間の掛かるマニュアルでのインストール作業を行うことなくシステムを高速でリストアできます。

Veritas System Recovery は、百万台以上のシステムの保護に使われている実績があり、安心して信頼性の高いシステムリカバリソリューションとして実証されています。

Veritas System Recovery 18 の主な機能

高速で自動化されたシステムリカバリ

- 物理システムや仮想システムを、ベアメタル、異なるハードウェア、遠隔地、または仮想環境に高速でリストアします。
- システム全体のリストアにあたり、オペレーティングシステム、アプリケーション、システム設定の手動での再インストールや再設定の必要がありません。
- オフサイトコピー機能を使用して、リカバリポイントをクラウドストレージ、外部ドライブ、ネットワーク共有、またはリモート FTP サーバーに自動的にコピーできます。

仮想変換機能

- 物理から仮想、および仮想から物理へのシームレスな変換を実現します。
- スケジュール設定された物理から仮想への変換により、システムリカバリを即時に実行可能です。
- VMware[®]、Microsoft[®]、Hyper-V[™]、Citrix[™]、XenServer[™] を含む、最新の仮想環境をサポートします。

高度なバックアップスケジュール

- ユーザーまたは従業員の生産性を低下させることなく、バックアップの自動実行をスケジュールします。
- コールドイメージング技術により、システムにソフトウェアをインストールせず、ブート前状態のシステムのバックアップをキャプチャできます。
- SmartSector[™] および圧縮のデータ削減技術を使用して、バックアップ処理を高速化し、ストレージコストを削減します。

暗号化

- AES 128 ビット、192 ビット、256 ビットのソフトウェア暗号化を提供します。

Veritas System Recovery 18の新機能

新機能	概要
Windows Server ver. 1709 / Windows 10 Falls Creators Updateのサポート	Microsoft社最新オペレーティングシステムであるWindows Server version 1709 (Build 16299)/ Windows 10 Falls Creators Update (Build 16299)をサポートしました。Veritas System Recovery 16でも同様にサポートしていますが、認知度向上のため、改めて明記しています。
「クラウドへ直接」オプションのサポート	Veritas System Recovery 18 のユーザーは「クラウドへ直接」オプションを利用できます。このオプションを利用してユーザーは次の操作を実行できます。 - クラウドに直接ドライブをバックアップ。 - Veritas System Recovery Disk を使用してクラウドに直接データをバックアップ。 - クラウドから直接データを復元。 - Veritas System Recovery Disk を使用してクラウドから直接データを復元。 - リカバリポイントのコピーまたは移動のオプションを使用して、既存のリカバリポイントをクラウドにコピーまたは移動。 - Recovery Point Browser を使用して、ドライブとしてクラウドにリカバリポイントをマウント。 「クラウドへ直接」機能は、64 ビットのオペレーティングシステムでのみサポートされます。
SMTP電子メールのTLS/SSL暗号化のサポート	TLS (Transport Layer Security) および SSL (Secure Sockets Layer) を伴うSMTP をサポートするようになりました。
Symantec Management Platform (SMP) 8.1のサポート	Management SolutionsのプラットフォームとしてSymantec Management Platform (SMP) 8.1をサポートしました。
Veritas Updateへの変更	Veritas System Recovery 18 に更新を提供するために、Symantec LiveUpdate は Veritas Update になりました。
SilverlightのAngularフレームワークのサポート	Management Solutionsのフレームワークとして、SilverlightをAngularフレームワークへの置き換えをサポートしました。

Veritas System Recovery 18 SP1の新機能

新機能	概要
Veritas System Recovery バックアップからのAmazon マシンイメージ (AMI) の作成	PowerShell スクリプトを使用した Veritas System Recovery バックアップからの AMI 作成をサポートするようになりました。既存の AMI の状態を表示できます。
リカバリポイントの手動検証	PowerShell スクリプトを使用したリカバリポイントの検証をサポートするようになりました。リカバリポイントのいずれかが破損しているかどうかをスクリプトが識別します。
Generic S3 互換のクラウドストレージ	Generic S3 プロバイダを通じてクラウドストレージが拡大され、ユーザーの柔軟性が向上しています。Cloud Instance Creator Utility を使用して Veritas System Recovery 18 Service Pack 1 からあらゆる S3 互換のクラウドインスタンスを設定し、バックアップと復元の OpenStorage の保存先として使用できるようになりました。 メモ: S3 互換のサポートは、Veritas System Recovery の「クラウドへ直接」オプションのサポートに似ています
Veritas Access のサポート	Veritas Access をサポートするようになりました。Cloud Instance Creator Utility を使用して Veritas System Recovery 18 Service Pack 1 から Veritas Access クラウドインスタンスを設定して、バックアップと復元の OpenStorage の保存先として使用できるようになりました。 メモ: Veritas Access のサポートは、Veritas System Recovery の「クラウドへ直接」オプションのサポートに似ています
vSphere 6.7 のサポート	Veritas System Recovery 18 Service Pack 1 の x64 バージョンは vSphere 6.7 をサポートします。 メモ: vSphere は Veritas System Recovery の P2V 変換機能をサポートします。

Veritas System Recovery 18 SP2の新機能

新機能	概要
Windows Server 2019のサポート	Veritas System Recovery 18 Service Pack 2では、Windows Server 2019をサポートするようになりました。Windows Server 2019オペレーティングシステムがインストールされているコンピュータのバックアップとリカバリが可能になりました。
Exchange Server 2019サーバー	Veritas System Recovery 18 Service Pack 2では、Exchange Server 2019をサポートするようになりました。Exchange Server 2019がインストールされているコンピュータのバックアップの作成とリカバリが可能になりました。
SMTP認証のサポート	Veritas System Recovery 18 Service Pack2 は、匿名認証、基本認証、NTLM(NT LAN Manager)認証を使用する SMTP をサポートします。
バックアップファイルの保存先としてOne Drive Businessフォルダの指定をサポート	Veritas System Recovery 18 Service Pack2 では、バックアップファイルの保存先として One Drive Business のフォルダを指定できるようになりました。

Veritas System Recovery 18 SP3の新機能

新機能	概要
隠しパーティションのサポート	隠しパーティションへのリカバリポイント（バックアップ）の保存および隠しパーティションに保存されているリカバリポイントからのリストアをサポートしました

製品ファミリーの紹介

Veritas System Recovery 18 Basic Edition

- Veritas System Recovery 18 Basic Edition を 1 ライセンス含む

Veritas System Recovery 18 Server Edition

- Veritas System Recovery 18 Server Edition を 1 ライセンス含む
- Veritas System Recovery 18 Desktop Edition を 1 ライセンス含む

Veritas System Recovery 18 Desktop Edition

- Veritas System Recovery 18 Desktop Edition を 1 ライセンス含む

Veritas System Recovery 18 Virtual Edition

- Veritas System Recovery 18 Server Edition を、同一仮想ホスト上で仮想 Windows ゲスト OS に無制限にインストール可能なライセンスを含む
- Veritas System Recovery 18 Desktop Edition を、同一仮想ホスト上で仮想 Windows ゲスト OS に無制限にインストール可能なライセンスを含む

Veritas System Recovery 18 Linux Edition

- Veritas System Recovery 18 Linux Edition を 1 ライセンス含む

Veritas System Recovery 18 Monitor

- Veritas System Recovery のLinux Editionを除くすべての Edition をお使いのお客様は無償で利用可能

Veritas System Recovery 18 Management Solution

- Veritas System Recovery の Basic Edition を除くすべての Edition をお使いのお客様は無償で利用可能

Server Edition, Basic Edition, Desktop Editionの機能比較

機能	Server Edition	Basic Edition	Desktop Edition
オンラインでのボリューム単位のバックアップ	○	○	○
フォルダやファイル単位でのバックアップ	○	—	○
スケジュール機能	○	○	○
増分バックアップ	○	—	○
コールドイメージング	○	○	○
ボリュームのバックアップから個別のフォルダやファイル単位でリス	○	○	○
ボリュームのバックアップから Exchange の個々のメール単位、SharePoint のドキュメント単位でリストア	○	○	○
異なるハードウェアへのリストア	○	○	○
仮想環境へのリストアおよびP2Vの変換	○	○	○
オフサイトコピー	○	—	○
System Recovery Management Solution による管理	○	—	○
System Recovery Monitor による監視	○	○	○
クラウドストレージ (Azure Blob Storage, AWS S3) に直接バックアップデータを保存	○	—	○
WindowsクライアントOS対応 ^{*1}	○ ^{*3}	—	○
WindowsサーバOS対応 ^{*2}	○	○	—

*1: 「WindowsクライアントOS」とは、Windows 7/8.1/10といったOSを搭載したクライアントマシンです。対応OSに関する詳細は、Software Compatibility List (SCL) - https://sort.veritas.com/DocPortal/pdf/VSR_18_SCLをご確認ください。

*2: 「WindowsサーバOS」とは、Windows Server 2012R2/2016といったOSを搭載したサーバマシンです。対応OSに関する詳細は、Software Compatibility List (SCL) - https://sort.veritas.com/DocPortal/pdf/VSR_18_SCLをご確認ください。

*3: Server EditionにはDesktop Editionのライセンスが1本付与されています。

購入プログラム

購入プログラム	説明
ビジネスパック	- メディアおよびライセンスとメンテナンス/サポートがバンドルされたボックス製品で、購入後すぐに使い始めることができます。 - ビジネスパックは、新規ライセンスのみ用意されています。アップグレードはありません。
コーポレートライセンスプログラム	あらゆる組織のお客様がベリタスのソリューションをシンプルな手続きでご購入いただけます。
ガバメントライセンスプログラム	政府機関または非営利団体のお客様がベリタスのソリューションをシンプルな手続きでご購入いただけます。
アカデミックライセンスプログラム	教育機関のお客様がベリタスのソリューションをシンプルな手続きでご購入いただけます。

購入プログラムについての詳細は、ライセンスプログラム価格表ページをご覧ください。

<http://www.veritas.com/ja/jp/licensing/>

2. Veritas System Recovery のライセンス

ライセンス数の決定方法

エディション	ライセンスメーター	例
Basic Edition および Server Edition	サーバー単位 (物理または仮想)	1サーバーごとに1ライセンスが必要です。保護対象のサーバーの数（物理または仮想）が、必要なライセンスの数です。 - 例)2台の物理サーバーを保護する場合： Server Edition ライセンスが 2つ必要 - SRD のコールドイメージング機能（ソフトウェアをインストールすることなくバックアップを可能にする機能）を使用する場合：保護対象のサーバーごと、またはコールドイメージング機能を使用するシステムごとに、ライセンスが1つ必要です。 - サーバーの移行に使用する場合：保護または移行対象のアクティブなシステム（物理または仮想）ごとにライセンスが1つ必要です。廃棄した（または廃棄予定の）サーバーをカウントする必要はありません。
Virtual Edition	仮想ホストの 物理サーバー単位	- 仮想ホストサーバーごとに 1 ライセンスが必要です。対象の仮想ホスト上の仮想マシン（Windows のみ）に対し、Server Edition と Desktop Edition を無制限に使用できます。 例) 1 台の物理ホストサーバーで 10 台の仮想マシンが稼働している場合： Virtual Edition ライセンスが 1つ必要 - 複数台の仮想ホストサーバーを使用している場合：Virtual Edition のライセンスを、保護対象の仮想ホストサーバーの数と同数購入する必要があります。 - 仮想環境では、Virtual Edition のほうが、仮想マシンごとに Server Edition を購入するより、コスト効果が高い場合があります。 - Windows Hyper-V が仮想ホスト OS の環境で Virtual Edition を利用する場合、ホスト OS も System Recovery Server Edition で保護することができます。 - Virtual Edition の保護対象の仮想ホスト上に、物理マシンを仮想変換して移動してくる場合のみ、仮想変換の対象となる物理マシンに、Virtual Edition のライセンスを一時的に利用して Server Edition および Desktop Edition を導入し、仮想変換を実施できます。
Desktop Edition	クライアントPC 単位	- 保護対象のクライアント PC 1台ごとに1ライセンスが必要です。 - 例)保護対象のクライアント PC が10台の場合： 合計10 ライセンス購入する必要があります。 - Desktop Edition はクライアント PC 単位でライセンスを付与されるため、何人のユーザーが各クライアント PC を使用してもライセンス数はクライアント PC 台数分です。
Linux Edition	サーバー単位	- 保護対象の Linux サーバー（物理または仮想）が 1 台の場合：Linux Edition が 1 ライセンス必要です。 - 複数の Linux サーバー（物理または仮想）を使用している場合：保護対象のサーバーごとに Linux Edition が 1 ライセンス必要です。 - Veritas System Recovery はLinux サーバー向けの Virtual Edition を提供しません。仮想環境上に複数の Linux サーバーがある場合（たとえばすべて仮想マシンとして）、Linux Edition を保護対象のサーバーのインスタンス数購入する必要があります。Veritas System Recovery Virtual Edition は、対象を Windows サーバー/PC のみとしています。
Veritas System Recovery Monitor	System Recovery 製品に含まれる	- Linux Edition を除くすべての Edition を集中監視することができます。 - Server Edition、Desktop Edition (Virtual Edition 含む)または Basic Edition を使用している場合、無償にて使用できます。
Veritas System Recovery Management Solution	System Recovery 製品に含まれる	- Basic Edition を除くすべての Edition を集中管理することができます。 - Server Edition、Linux Edition または Desktop Edition を使用している場合、無償にてダウンロードして使用できます。

特定の用途におけるライセンスシナリオ

以下のシナリオでは、特定の用途で Veritas System Recovery を使用する場合のライセンスについて解説します。以下の例およびシナリオは必ずしも網羅的ではありませんが、エンドユーザーライセンス使用許諾契約に記載されている製品のライセンスに関する字義および意図を補足するものとなっています。

コールドイメージング

「コールドイメージング」とは、System Recovery Disk(SRD)を使用してマシンをブートし、そのマシンのイメージバックアップを「コールド」状態（ブート用ハードディスクドライブ上で動作していない）で作成することを指します。このシナリオでは、Veritas System Recovery をシステムにインストールすることなくコールドイメージングによりシステムをバックアップできます。

コールドイメージング機能の使用は、通常のインストールと同様に扱われます。つまり、この機能が動作するにはライセンスキーが必要であり、インストールしたときと同様にライセンスが付与された機能を使用しているとみなされます。すなわち、複数のシステムでコールドイメージングを使用するには、追加のライセンスが必要です。Veritas System Recovery がインストールされたシステム（プライマリインストールシステム）以外の任意のシステムでコールドイメージングを使用することは、ライセンス違反に該当します。

P2V 変換機能

Veritas System Recovery の P2V 機能によって、物理システムのリカバリポイントを仮想イメージファイル（VHD / VHDKまたは VMDK）に変換できます。この機能は、エンドユーザーライセンス使用許諾契約により付与される資格に基づいて使用できます。

P2V 機能を使用してシステムを物理から仮想に移行することは許可されており、Veritas System Recovery のライセンス資格は移行後のシステムに移動します。1つのライセンスを物理システムと仮想システムの両方に使用することは、ライセンス使用許諾契約（ライセンスはサーバーまたはデスクトップ単位で付与）違反に該当するため、状況によらず認められません。システムがあるサーバー（物理または仮想）から別のサーバー（物理または仮想）に移行するため、ライセンスも同様に移行します。これは、元のバックアップの種類（システムにインストールした System Recovery が作成した「ホット」バックアップ、SRD を介したコールドイメージングの使用など）に関わらず該当します。

P2V変換を実行した結果、2つのシステム（元の物理システムと新しい仮想システム）が動作しており、両方のシステムを引き続き保護する場合は、ライセンスが合計 2つ必要です。

その他の移行

物理システムの移行ツールとして使用する場合も、同じ基本ライセンスルールが適用されます。つまり、ある物理サーバーから別の物理サーバーへの移行目的で Veritas System Recovery の機能を使用する場合、ライセンスが使用されます。たとえば、システム A からシステム B への移行は、システム B のみが移行後にアクティブな状態を保つ（つまりハードウェアのアップグレードと廃棄）という条件で許可されます。Veritas System Recovery のライセンスは、移行後のサーバーに移動する必要があります。Veritas System Recovery のライセンスはある時点において 1 つのアクティブなシステムを保護することを目的とするため、複数システムの移行に単一のライセンスを使用することは、ライセンス違反に該当します。Veritas System Recovery がシステムの移行に使用された場合、移行後のシステムはアクティブな状態を維持し、すなわちライセンスを継承します。

バックアップ元のシステムがアクティブでなくなる（ハードウェアの更新、アップグレードまたは廃棄など）という条件で、移行するシステム間（物理から物理、物理から仮想、仮想から物理または仮想から仮想）でライセンス移行が行われることがあります。

3. 資格、アップグレード、移行パス

System Recovery 2013R2/Veritas System Recovery 16からVeritas System Recovery 18 に直接アップグレードすることが可能です。サポート/メンテナンス契約の状態によっては、Veritas System Recovery 18 に無償でアップグレードできる場合があります。無償アップグレード資格の有無については、次の表を参照してください。

アップグレード資格

メンテナンスの状態	説明
有効なサポート/メンテナンス契約をお持ちの System Recovery のお客様	既存の製品を、サポート/メンテナンス契約に基づいて無償で Veritas System Recovery 18 にアップグレードできます。
Veritas System Recovery 16およびそれ以前のバージョンを使用中で、有効なサポート/メンテナンス契約をお持ちではないお客様	Veritas System Recovery 18 を使用するには、該当する後継製品のバージョンアップグレード用型番 (SKU) にて、ライセンスをお得な価格で購入することができます。

アップグレードの仕組み

現在お使いの製品	Veritas System Recovery 18へのアップグレード
System Recovery ライセンス (サポート/メンテナンス契約あり)	
Veritas System Recovery 16 System Recovery 2013/2013R2 System Recovery 2011 Backup Exec System Recovery 2010 Backup Exec System Recovery 8.5 Backup Exec System以前	- Veritas System Recovery 18 に無償でアップグレードできます。ソフトウェアは、Veritasサポートサイトからダウンロード、またはメディアを購入することにより入手できます。 - Veritas System Recovery 16 / System Recovery 2013R2を使用中のお客様は、Veritas System Recovery 18に直接アップグレードできます。
サポート/メンテナンス契約なしのお客様 (Veritas System RecoveryのすべてのEdition)	
System Recovery または Backup Exec System Recovery の全バージョン (サポート/メンテナンス契約なし)	Veritas System Recovery 16、System Recovery 2013R2またはそれ以前のバージョンを使用中で、有効なサポート/メンテナンス契約をお持ちではないお客様がVeritas System Recovery 18 を使用するには、該当する後継製品のバージョンアップグレード用型番(SKU)にてお得な価格で購入することができます。

サポート終了情報

バージョン	リリースの種類	販売終了	標準サポート終了日	すべてのサポート終了日
System Recovery 2013	メジャー	販売終了	2017年 11 月 7 日	2019年 11 月 7 日
System Recovery 2013 R2	マイナー	販売終了	2017年 11 月 7 日	2019年 11 月 7 日
Veritas System Recovery 16	メジャー	販売終了	2019年2月5日	2021年2月5日
Veritas System Recovery 18	メジャー	未定	未定	未定

注) 上記に記載の無い過去のバージョンは、全てサポートの提供が終了しています。

4. サポート／メンテナンスサービスの提供

有効なサポート／メンテナンスサポート契約をお持ちのお客様は、Veritas テクニカルサポートグループに対し、電話やWEBによりお問い合わせのケースを発行できます。そして、電話や Eメールでのサポート対応を受けることができます。

Veritas テクニカルサポートグループにお問い合わせの際には、次の情報をご用意ください。

- ・ サポート契約のサポートID
- ・ ご利用中の製品名及びバージョン、サービスパックやリリースのレベル
- ・ ハードウェア情報（利用可能なメモリ、ディスク領域、NIC情報、など）
- ・ オペレーティングシステム
- ・ ネットワークトポロジ（ルーター、ゲートウェイおよびIPアドレス情報、など）
- ・ 問題／お問い合わせの内容
- ・ エラーメッセージ／ログファイル
- ・ ベリタスのサポートに連絡する前に行ったトラブルシューティングの内容と結果
- ・ 最近行ったソフトウェアの構成変更および／またはネットワークの変更

サポート契約レベル

	特徴
エッセンシャルサポート	・ サポート契約期間中、最新バージョンへのアップグレードの無償提供 ・ 重大度 1 の障害に対して、レスポンスタイムの目標値 30 分 ・ 24 時間 365 日の電話対応 (重大度1の障害に対してのみ 24 時間の問題解決に対応。時間外の対応言語は英語のみ。) ・ 製品タイトルごとに、お問い合わせ担当者 (Named Caller) を 6 人まで登録可能
ベーシックメンテナンス	・ サポート契約期間中、最新バージョンへのアップグレードの無償提供 ・ 重大度 1 の障害に対して、レスポンスタイムの目標値は 1 営業時間内 ・ 24 時間 365 日の更新とパッチの提供 ・ 営業時間内 (弊社営業日 9:00-18:00) のコールセンターへの問い合わせ ・ 製品タイトルごとに、お問い合わせ担当者 (Named Caller) を 2 人まで登録可能

サポートの複数年契約の注意事項

サポートは複数年分を一括契約可能です。その際、以下の組み合わせでご発注頂く必要があります。ご不明点は販売店、仕入れ元、ベリタスセールスインフォメーションセンターまでお問い合わせください。

契約年数	ご発注頂く製品/サポートの組み合わせ
1年	12ヶ月（1年分）のサポート付ライセンス
2年	24ヶ月（2年分）のサポート付ライセンス
3年	36ヶ月（3年分）のサポート付ライセンス
4年	36ヶ月（3年分）のサポート付ライセンス + 12ヶ月（1年分）の更新用サポート契約
5年	36ヶ月（3年分）のサポート付ライセンス + 24ヶ月（2年分）の更新用サポート契約

注)ご利用頂く製品のサポート提供期間は、ご契約いただいたサポート契約の年数とは連動していません。

必要に応じ、サポート契約により無償で提供される最新バージョンへのアップグレードをご利用ください。

Webベースのテクニカルサポート

Veritasは、お客様に最新の情報と案内を提供するために専用のWebサイトをご用意しています。

- テクニカルサポート情報
https://www.veritas.com/content/support/ja_JP.html
- System Recoveryのテクニカル情報
https://www.veritas.com/content/support/ja_JP/DocumentBrowsing.html?product=System%20Recovery
- 最新のソフトウェア互換性リスト
https://www.veritas.com/content/support/en_US/doc/VSR_18_SCL

5. 評価版

Veritas System Recovery 18 の 60日間評価版は、Veritas Webサイトからダウンロードできます。

URL : <https://www.veritas.com/trial/ja/jp/system-recovery-18.html>

〈Backup& Recovery 製品情報〉

販売店様向け各種資料をWEBで公開しております。こちら是非ご参照ください。

WEB URL : <http://info.veritas.com/japan-product-resources>



©2019 Veritas Technologies LLC. All rights reserved. Veritas、Veritasロゴは、Veritas Technologies LLC または関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。
本カタログの記載内容は、2019年 2月現在のものです。内容は予告なく変更される場合があります。

ベリタステクノロジーズ合同会社

〒107-0052 東京都港区赤坂1-11-44 赤坂インターシティ4F

ベリタスセールスインフォメーションセンター

(法人のお客様向け製品購入に関する相談窓口)

■ 電話 : 0120-907-000 (IP電話からは 03-4531-1799)

■ 電話受付時間 : 10:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00

(土日祝日、年末年始を除く)

お問い合わせ